

屋根設計のための
標準施工マニュアル

ULTRA
K'UEST

ウルトラ クエスト

製作年月日
2018年04月20日

改訂 第2版



石州防災平板瓦

“ウルトラ Kuest ” 標準施工マニュアル

建築工事標準仕様に基づく施工方法の紹介

この施工マニュアルは（社）日本建築学会が
建築の質的向上と合理化を図る目的で定めた
“建築工事標準仕様書 (JASS12) 屋根工事”

に従って解説したものです。

建築工法の多様化や意匠の個性化に伴い、屋根
材に求められ性能・機能・意匠・施工等もまた
多様化してまいりました。

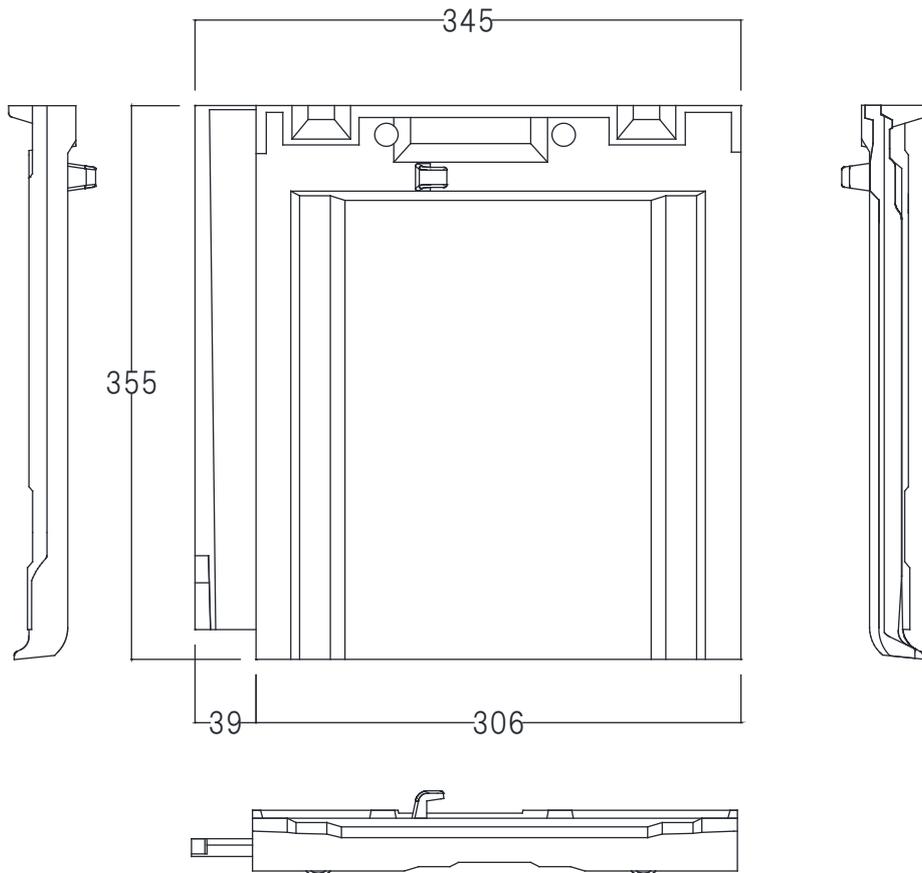
こうした市場環境下にあって石州瓦をより多く
の消費者に理解していただき、より安全でより
快適な住まいづくりのお役に立てばと、この
施工マニュアルを作成しました。

屋根施工業、工務店、設計事務所の方々の参考
になれば幸いです。

CONTENTS

1. 製品について	1
2. 瓦の形と使用箇所	2
3. 躯体・割付け寸法	5
4. 施工用材	6
5. 屋根下葺材	6
6. 瓦の留め付け	7
7. 施工詳細図	8

1. 製品について



■製品概要

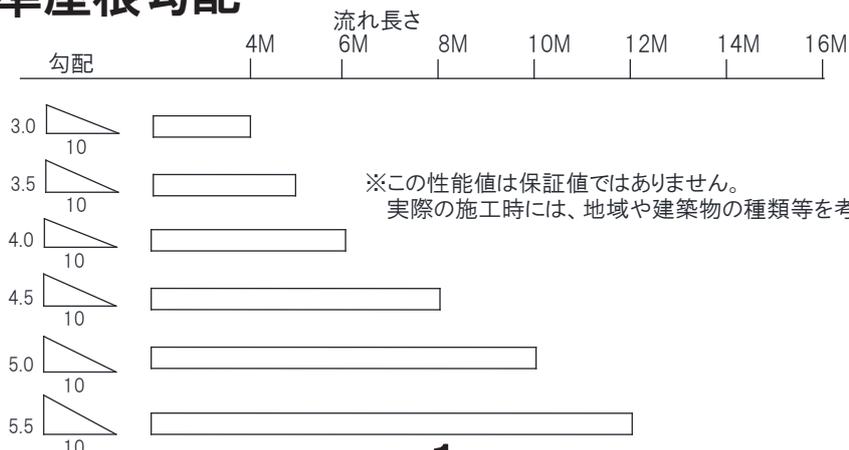
寸法	長さ	355mm (±4mm)
	幅	345mm (±4mm)
	働き長さ	280mm (±4mm) (265~285mm)
	働き幅	306mm (±4mm)
葺き枚数	12枚/m ² 40枚/坪	
重量	3.85kg/枚 45kg/m ² 157kg/坪	
使用可能勾配3寸以上		

■物性概要

曲げ破壊強度試験	1,800N以上	JIS A52085. J
吸水率試験	6.0±1.0%	JIS A52085. 4
凍害試験	25回の繰返しで異常なし	JIS A52085.5
耐薬品試験	異常なし	JIS A52097.13
耐風圧力性能試験	2,750N/m ²	150 サイクル法

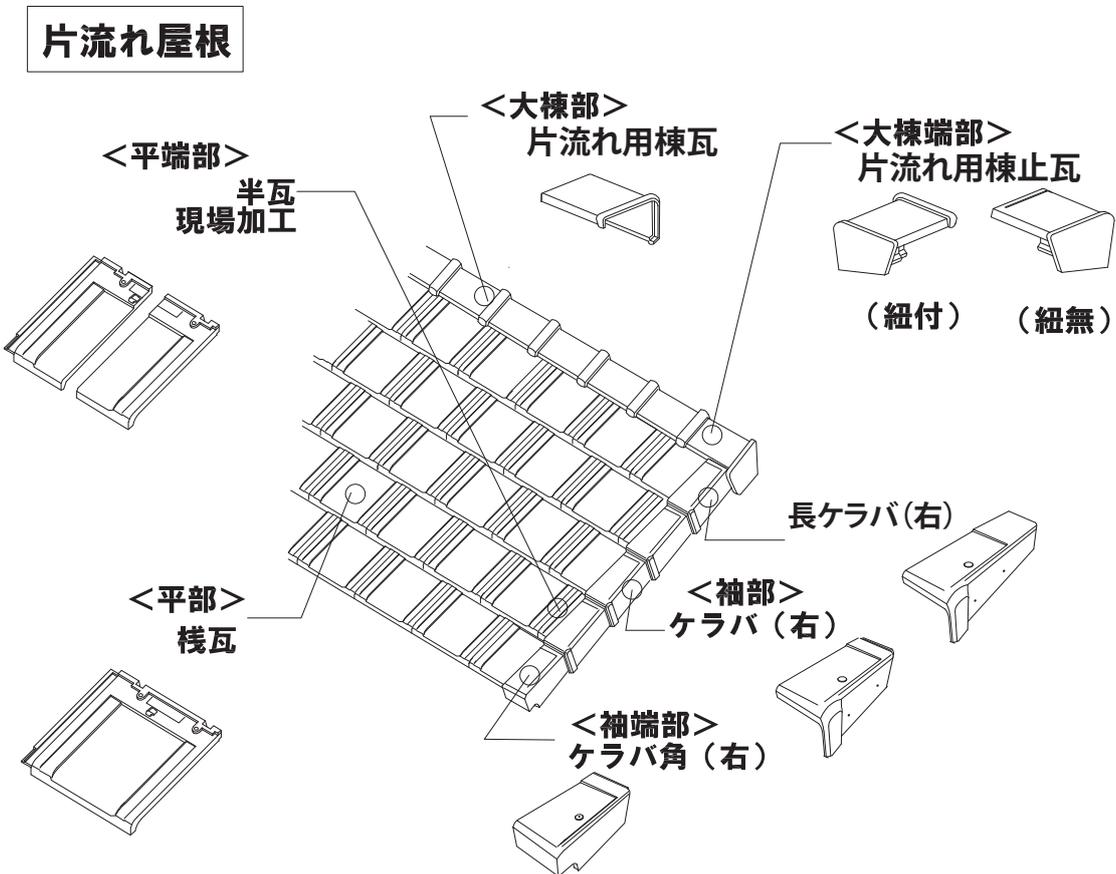
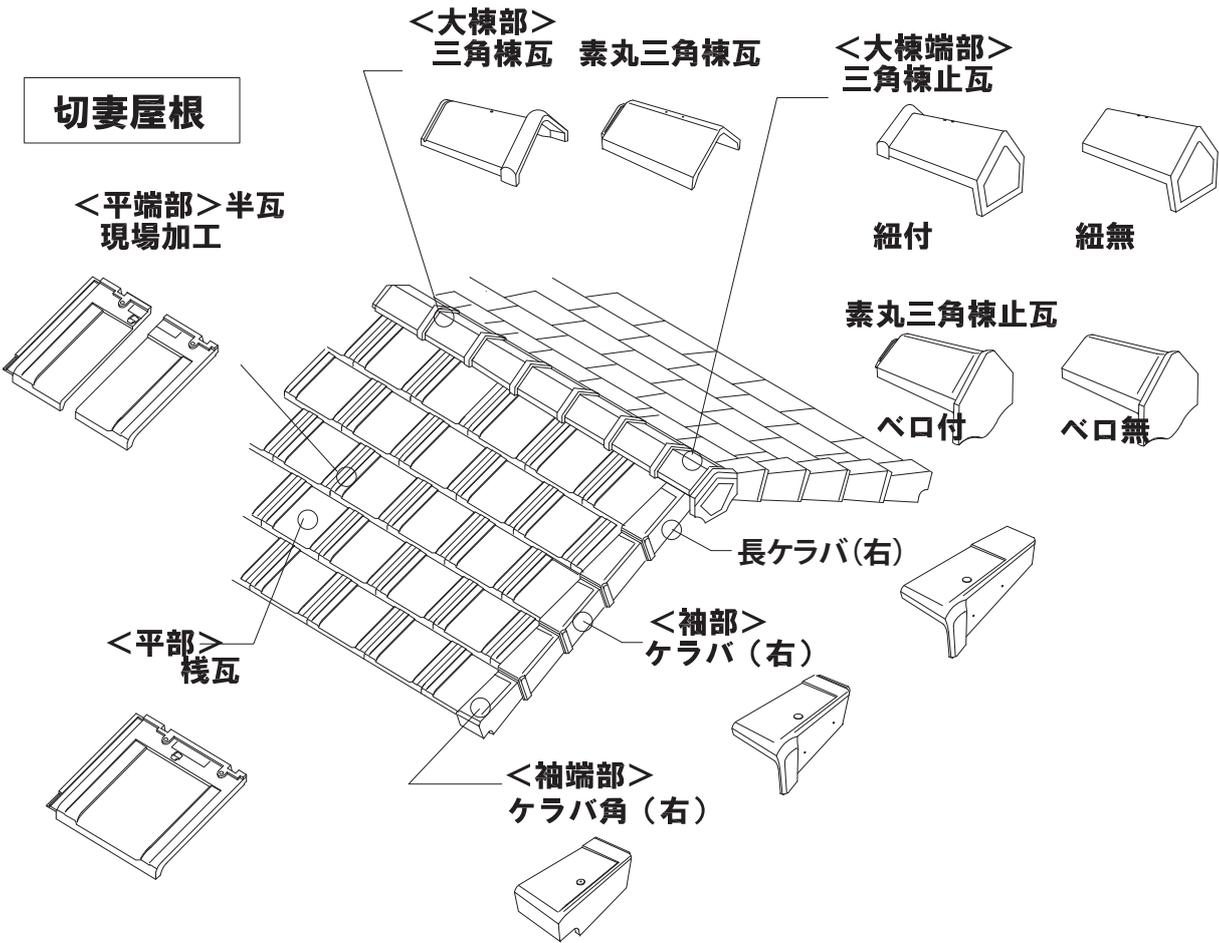
※上記製品性能値は、島根県産業技術センターの試験結果です。

■標準屋根勾配

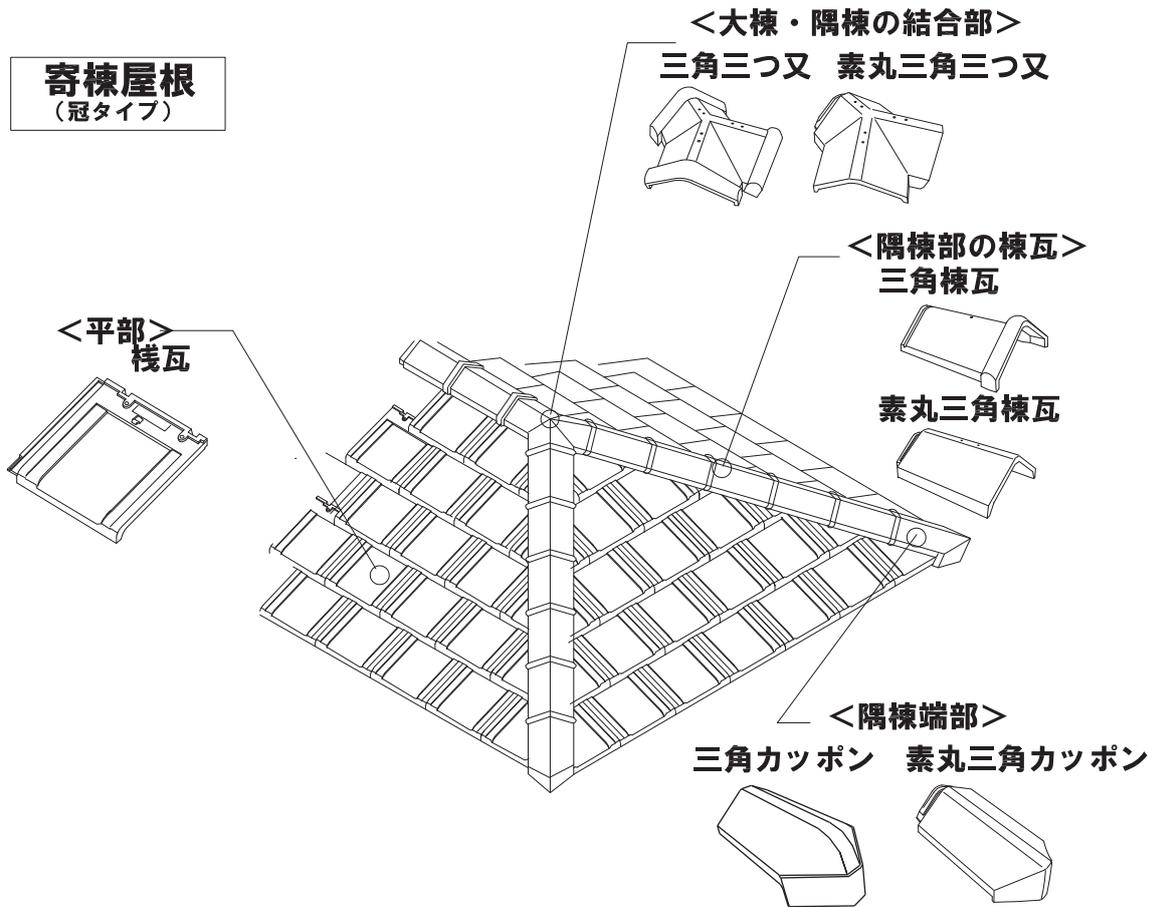


※この性能値は保証値ではありません。
実際の施工時には、地域や建築物の種類等を考慮し、下地に注意して下さい。

2. 瓦の形と使用箇所

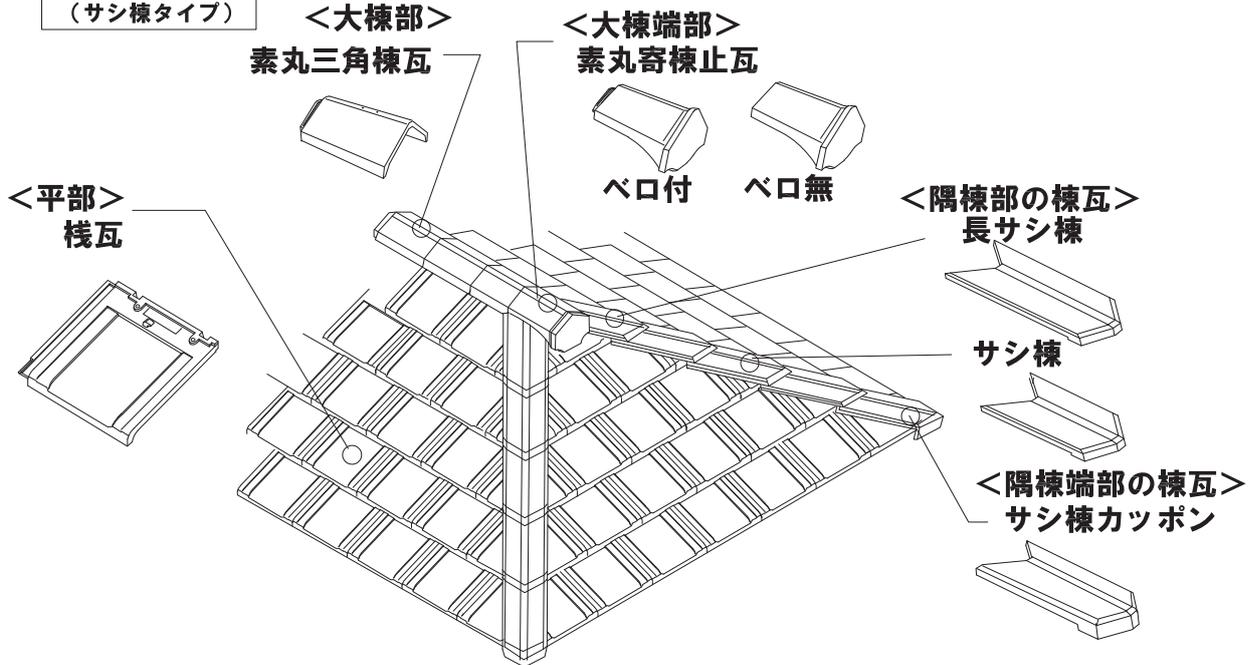


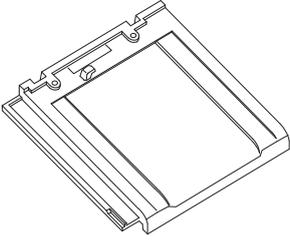
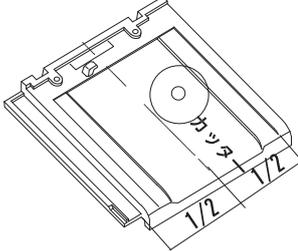
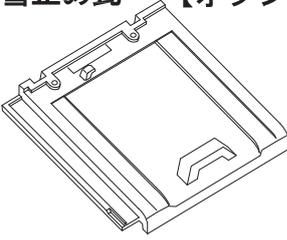
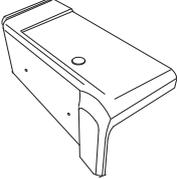
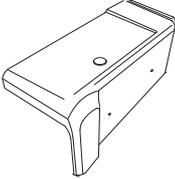
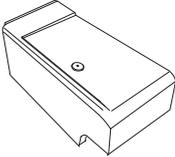
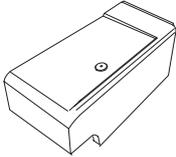
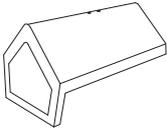
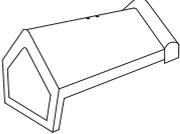
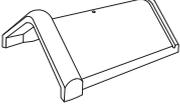
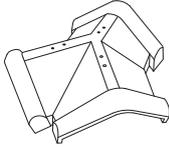
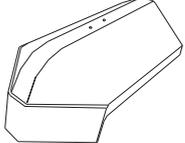
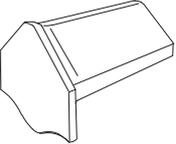
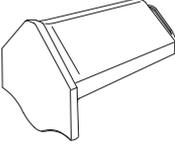
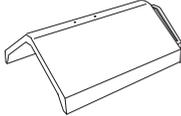
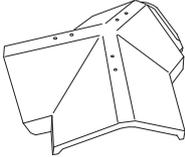
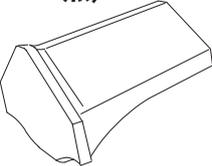
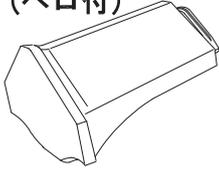
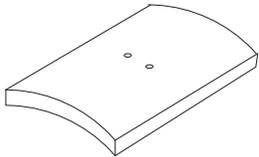
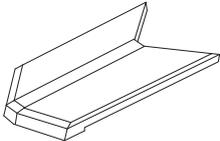
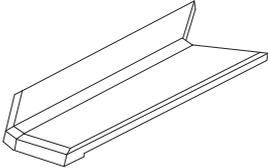
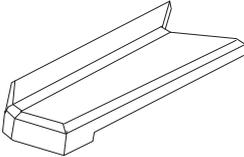
寄棟屋根
(冠タイプ)



寄棟屋根
(サシ棟タイプ)

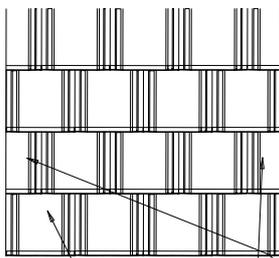
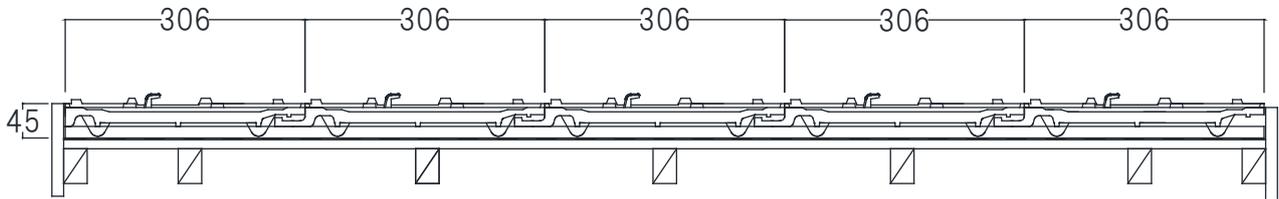
【オプション】



棧瓦					
棧瓦 	半瓦 *棧瓦現場カット 	雪止め瓦 【オプション】 			
袖瓦					
ケラバ(左) 	ケラバ(右) 	ケラバ角(左) 	ケラバ角(右) 		
棟瓦					
紐付棟瓦用	三角棟止瓦 (紐無) 	三角棟止瓦 (紐付) 	三角棟瓦 	三角三つ又 	三角カッポン 
	紐無棟瓦用	素丸三角棟止瓦 (ベロ無) 	素丸三角棟止瓦 (ベロ付) 	素丸三角棟瓦 	素丸三角三つ又 
棟瓦(サシ棟用)【オプション】			のし瓦		
素丸寄棟止瓦 (ベロ無) 	素丸寄棟止瓦 (ベロ付) 		小のし(厚のし) 		
サシ棟 	長サシ棟 	サシ棟カッポン 			

3. 躯体・割付け寸法

●桁行き方向



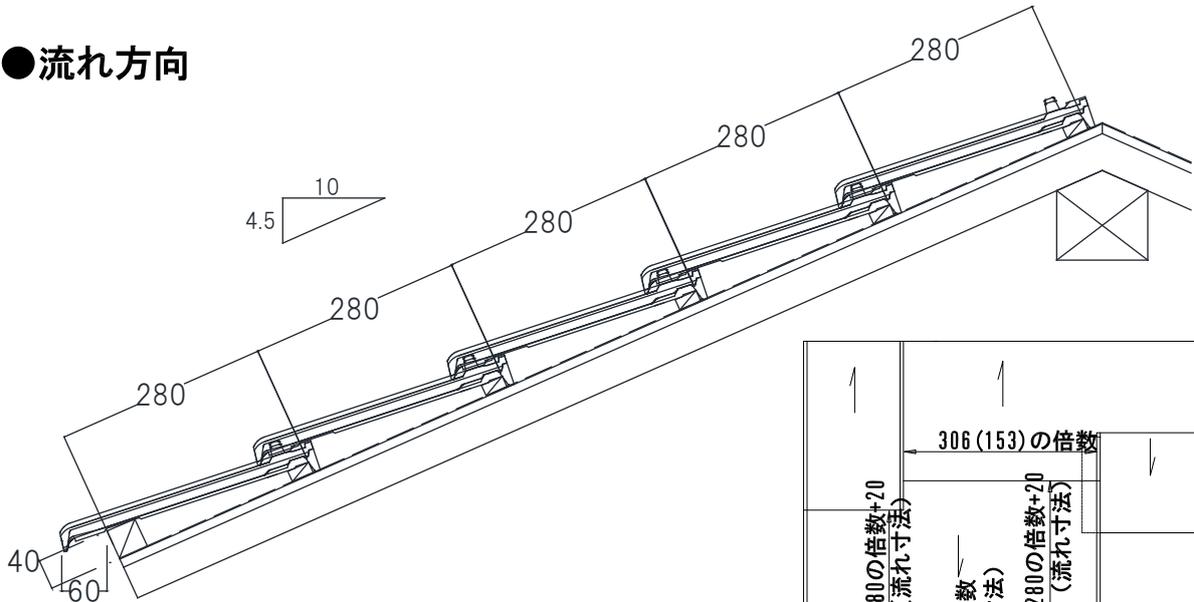
カット



カット

- ケラバに捨水切を必ずご使用下さい。
- 桁行は、306mmまたは153mmの整数倍で決めて下さい。（破風内々寸法）
- ケラバ側の棧瓦は左図のようにカットして使用してください。

●流れ方向



- 流れの寸法は、利足（280mm）の枚数を基準に割付けて下さい。
- 軒先瓦の出を60mmとし、280mmの位置を第1瓦棧の位置として、順次利足の寸法で棧木を設置して下さい。
- 流れの勾配は3寸以上とします。
- 4寸勾配に満たない仕様の場合には、特に下葺材に十分注意を払って下さい。

4. 施工用材

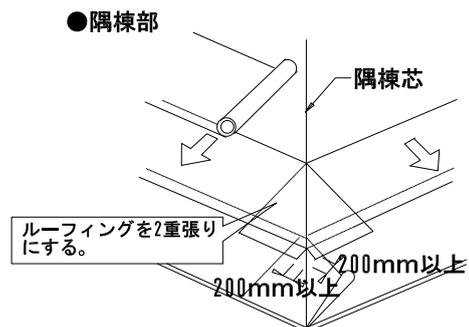
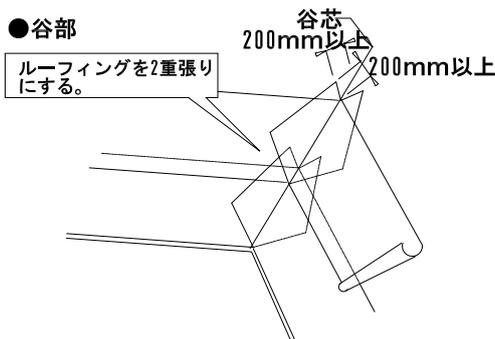
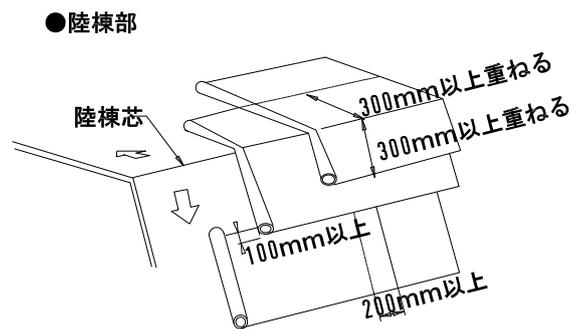
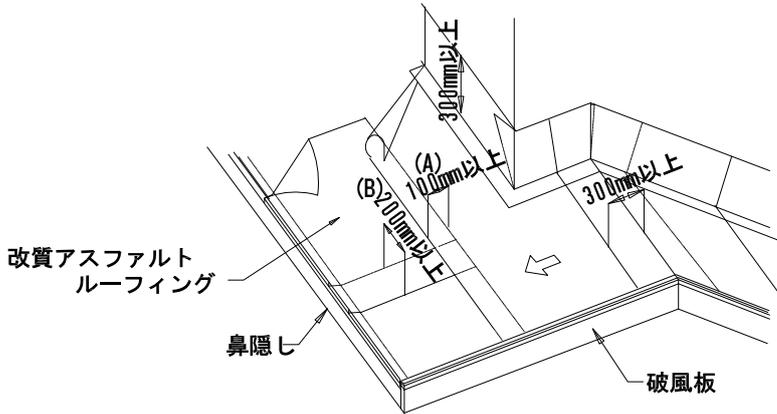
- 釘
- 下葺材
- 瓦棧木
- 葺土・モルタル
- シーラー
- 流し棧 (ルーフトープ)
- 軒先・捨水切

- 棧瓦用/ステンレススクリング釘65mm
- ケラバ・ケラバ角用/パッキン付ステンレスネジ50mm
- 棟瓦用/パッキン付ステンレスネジ75mm (強力棟)
- 瓦棧木用/ステンレス連結釘45mm
- 改質アスファルトルーフィング
- 材質/針葉樹Ⅱ類以上の良質なもの
- 寸法/15×30mm
- 葺土/なんばんしっくい
- モルタル
- ケラバ用/シーラー15×15×2m
- 隅棟用(サシ棟用)、平行壁ぎわ/シーラー25×25×2m
- 流れ壁ぎわ用/流れ壁ぎわ専用シーラー
- 瓦横棧木の下にご使用ください。
- 寸法2.5×27m
- 軒先・ケラバ捨水切・捨水切を必ずご使用ください。



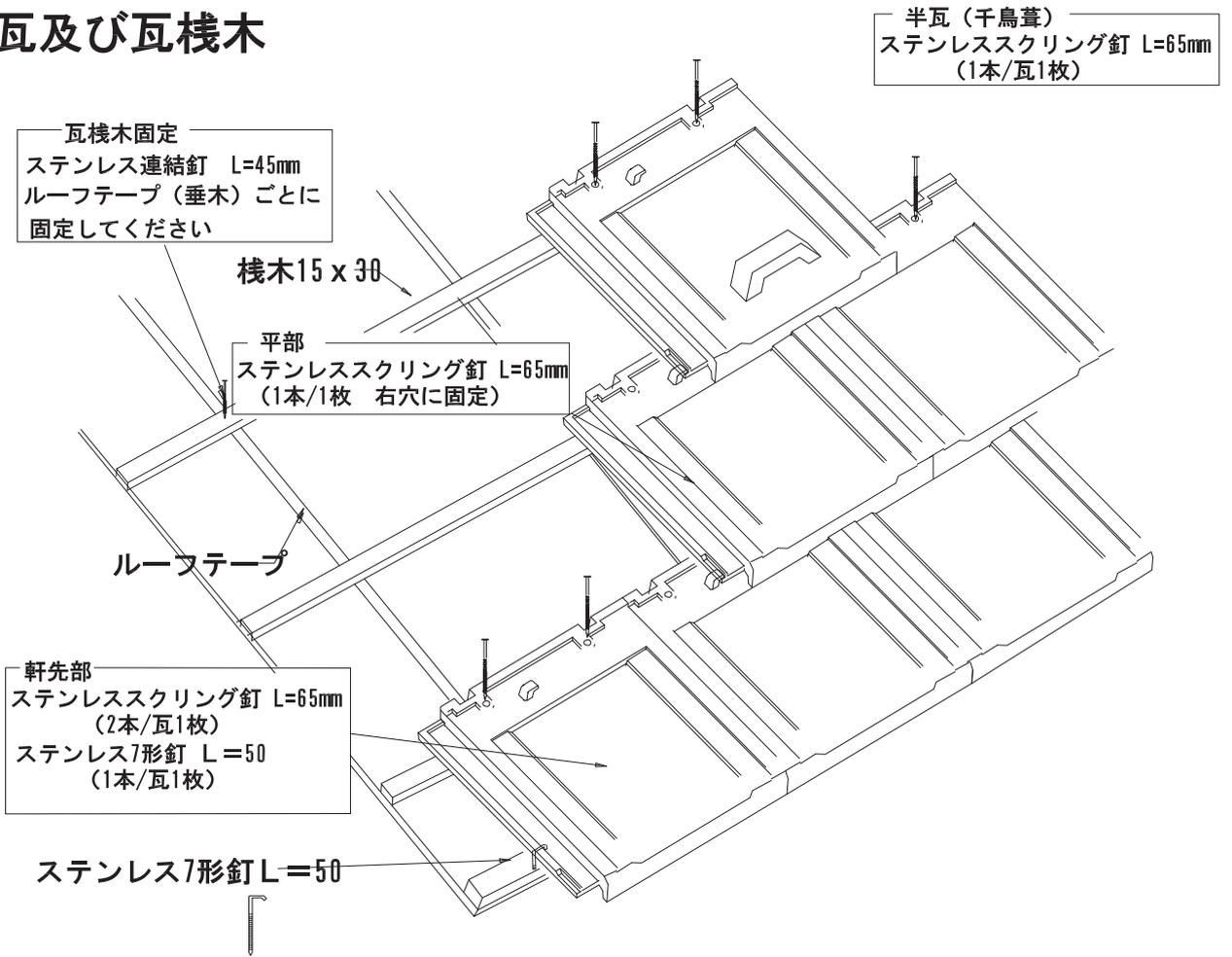
5. 屋根下葺材

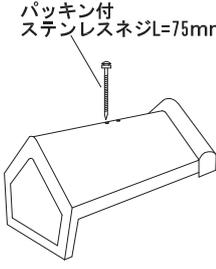
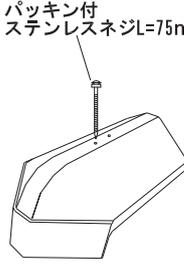
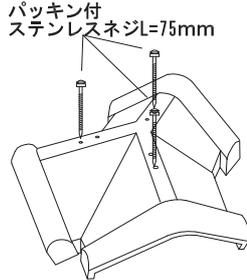
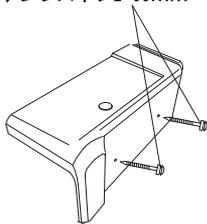
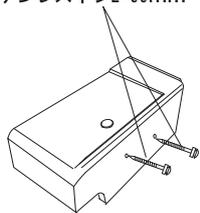
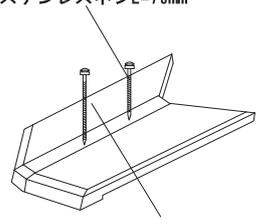
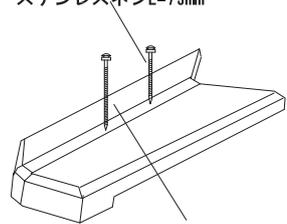
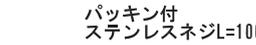
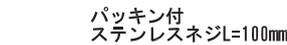
- 下地材は、軒先より横方向に順次上り方向に敷いて行きます。流れ方向の重なり(A)は100mm以上とし、つなぎ目(B)は200mm以上にします。
- 壁との取合部は300mm以上立ち上げて下さい。
- 谷、陸棟、隅棟部分は二重張りとします。
- 留付けは300mm間隔にたるみのないように留付けて下さい。



6. 瓦の留め付け

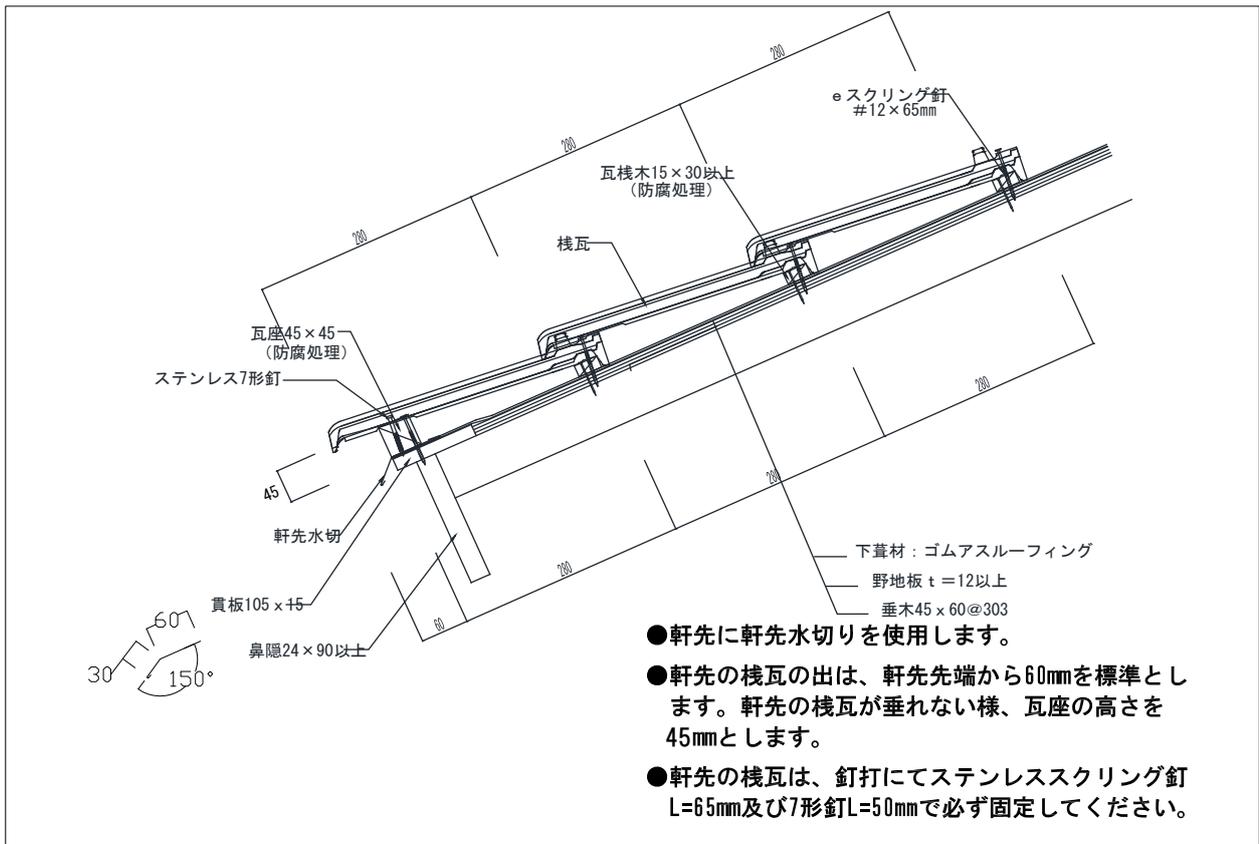
棧瓦及び瓦棧木



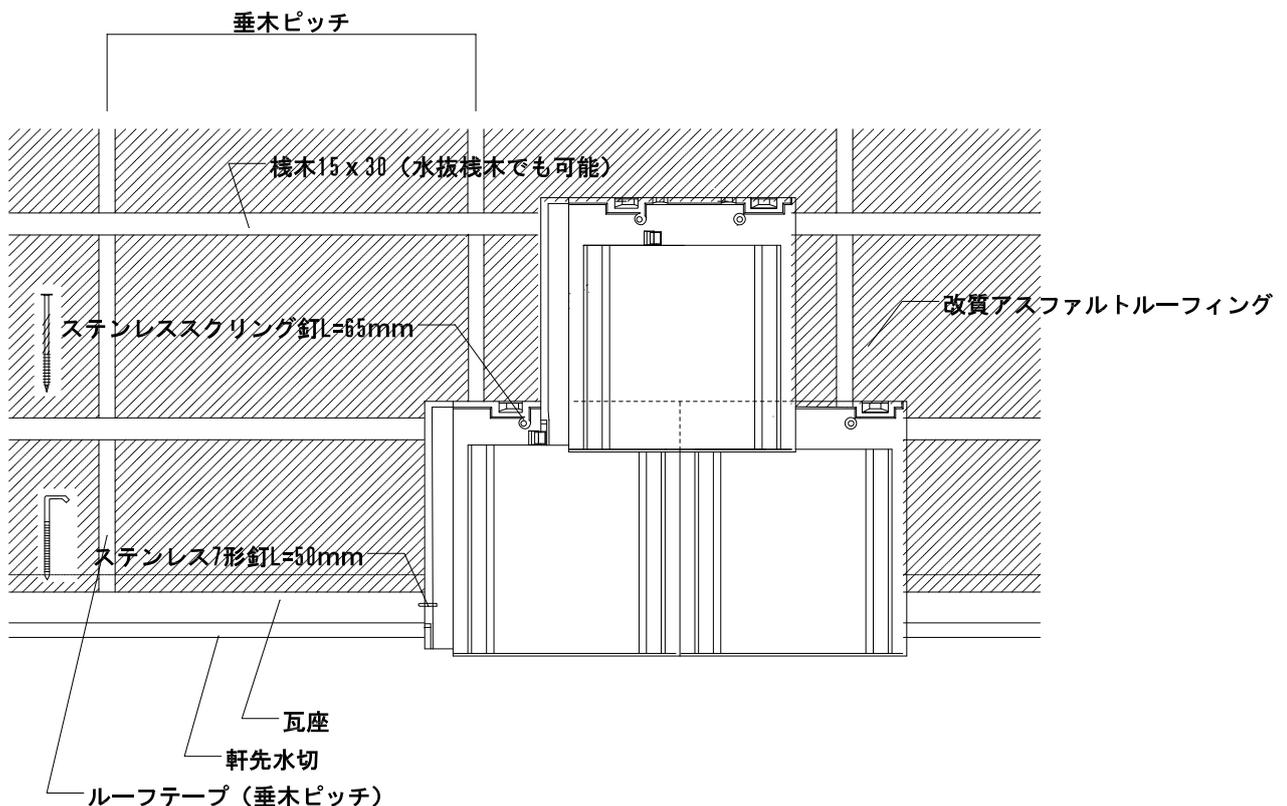
棟瓦	三角棟止瓦	三角カッポン	三角三つ又
パッキン付 ステンレスネジL=75mm 	パッキン付 ステンレスネジL=75mm 	パッキン付 ステンレスネジL=75mm 	パッキン付 ステンレスネジL=75mm 
ケラバ	ケラバ角	サシ棟	サシ棟カッポン
パッキン付 ステンレスネジL=50mm 	パッキン付 ステンレスネジL=50mm 	パッキン付 ステンレスネジL=75mm 	パッキン付 ステンレスネジL=75mm 
		パッキン付 ステンレスネジL=100mm 	パッキン付 ステンレスネジL=100mm 

7. 施工詳細図

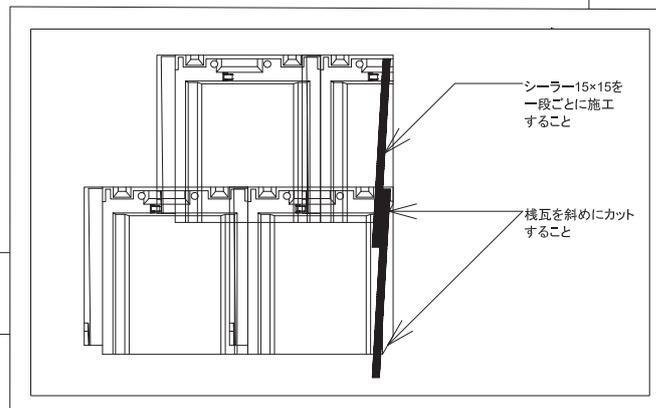
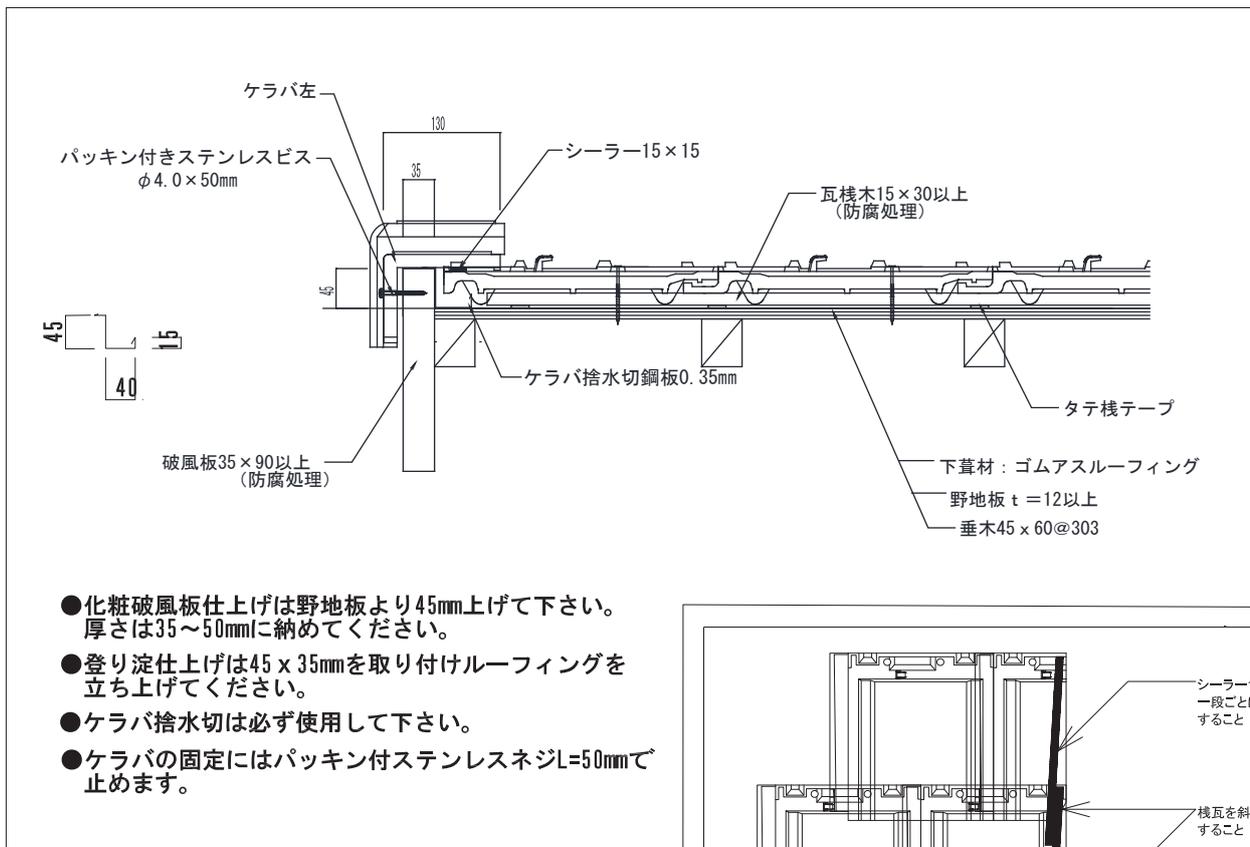
【軒先の納まり】



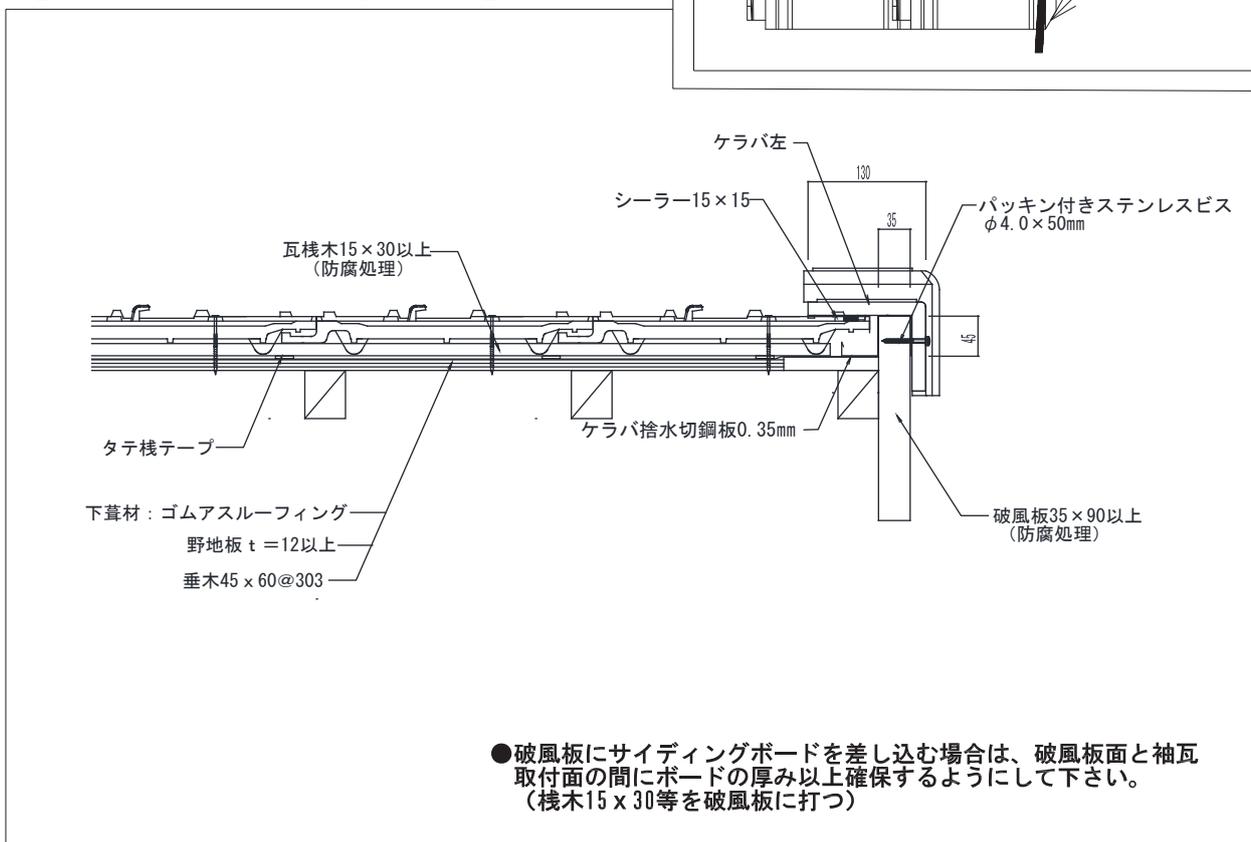
軒先部



【ケラバ(左)の納まり】

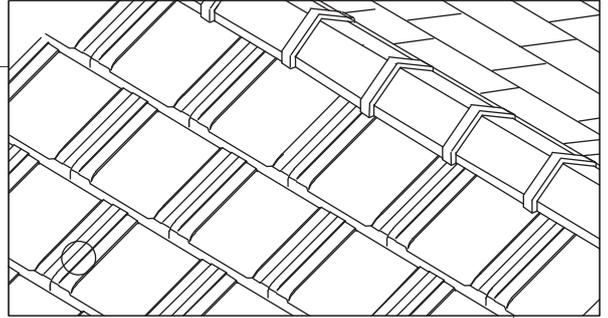


【ケラバ(右)の納まり】

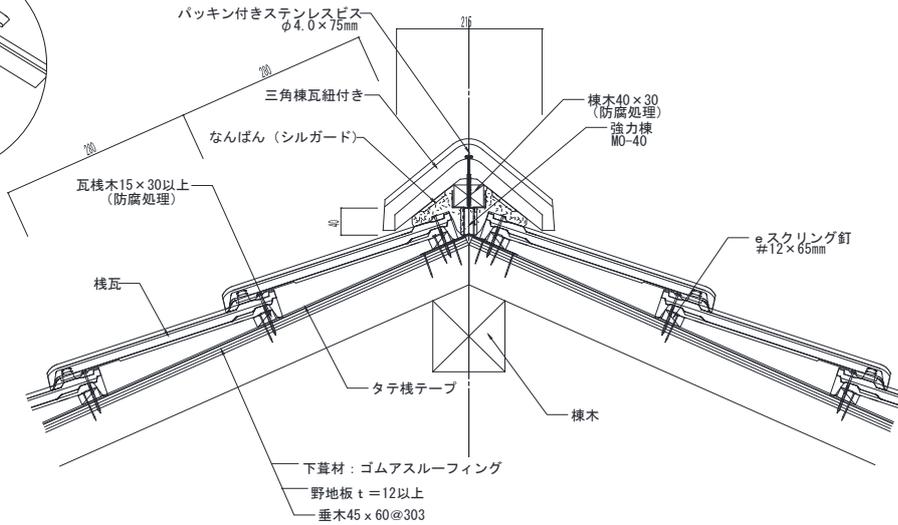
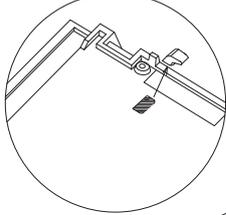


【棟の納まり】

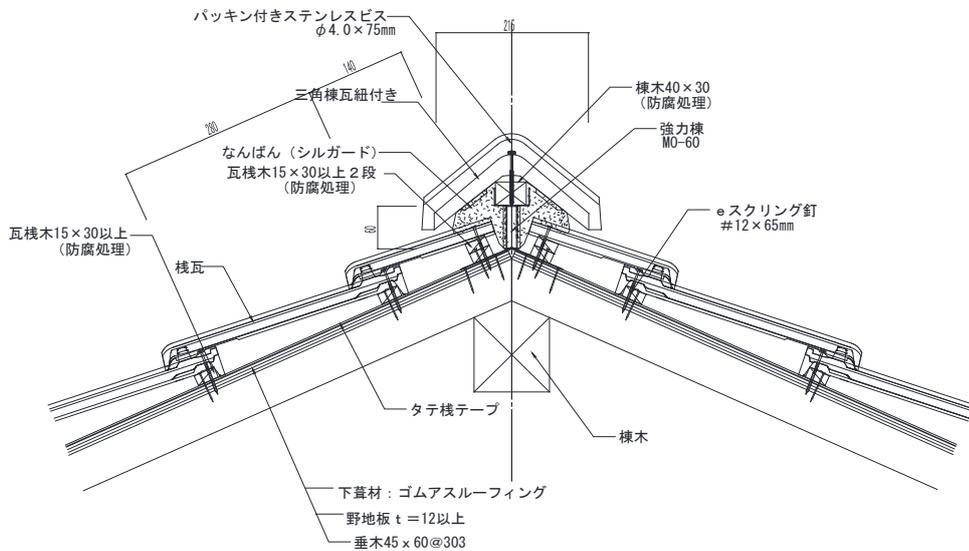
最上列が定尺で納まる場合



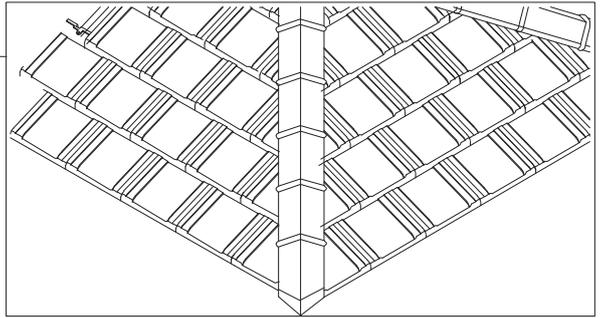
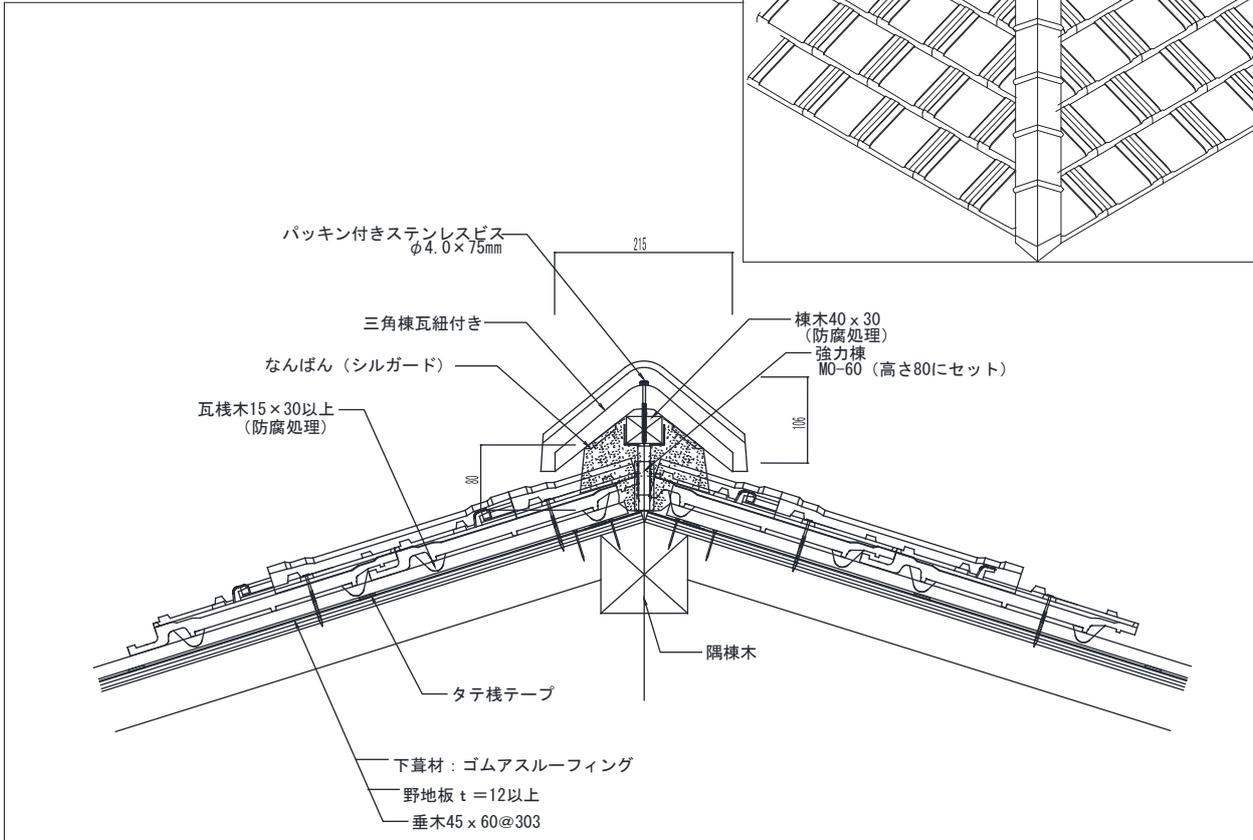
最上列のフック部分は取り除く



最上列が半瓦で納まる場合



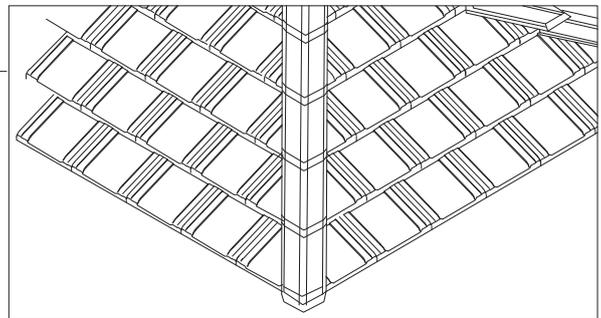
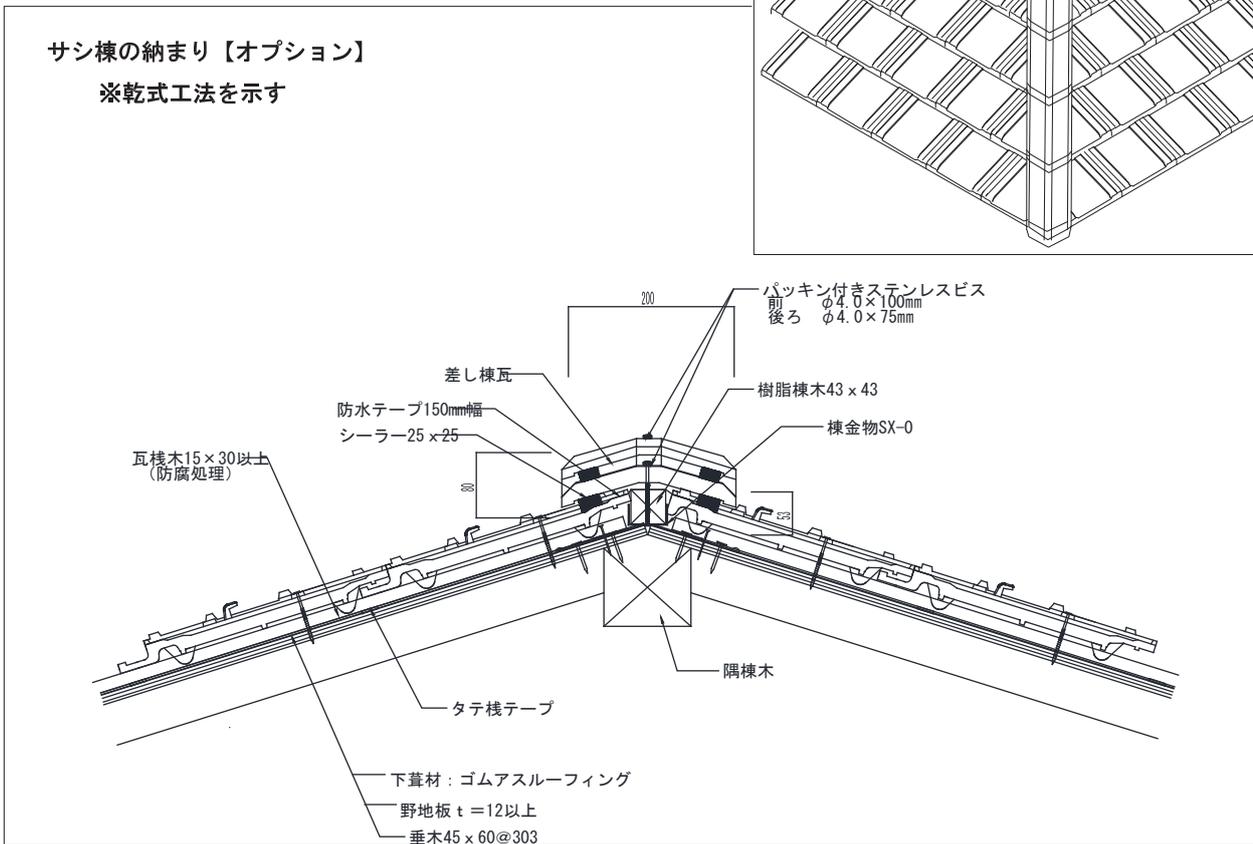
【隅棟の納まり】



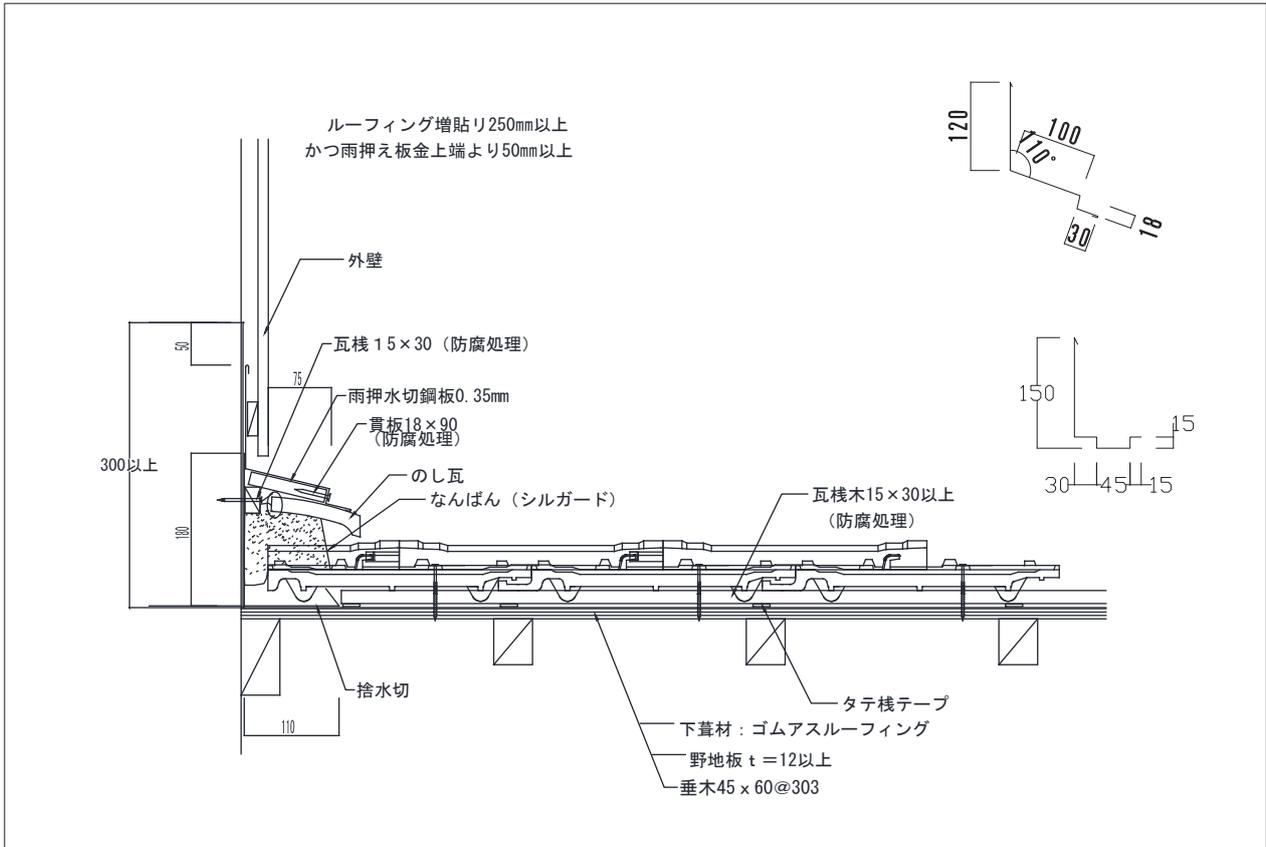
【隅棟の納まり】

サシ棟の納まり【オプション】

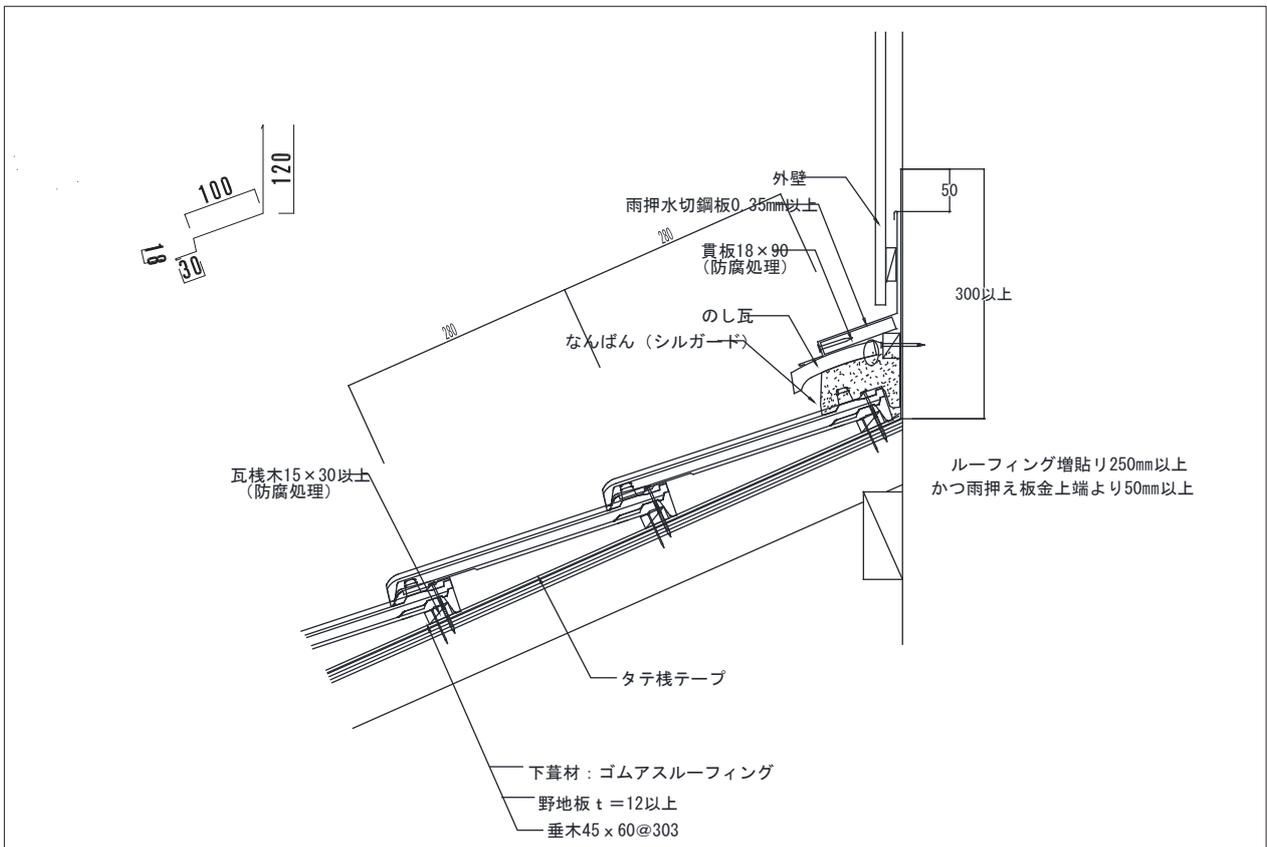
※乾式工法を示す



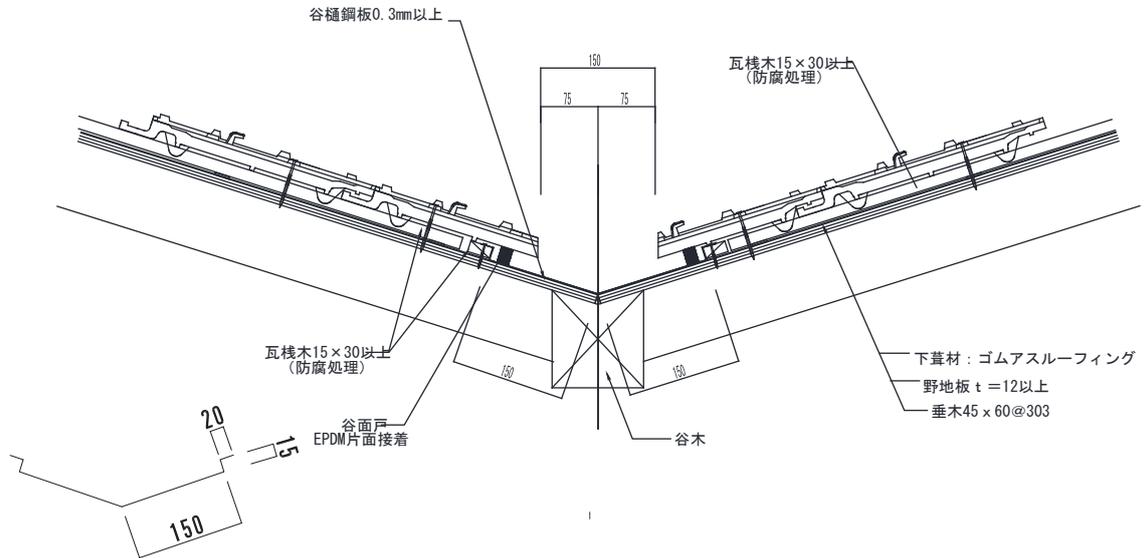
【壁際(流れ方向)の納まり】



【壁際(水平方向)の納まり】

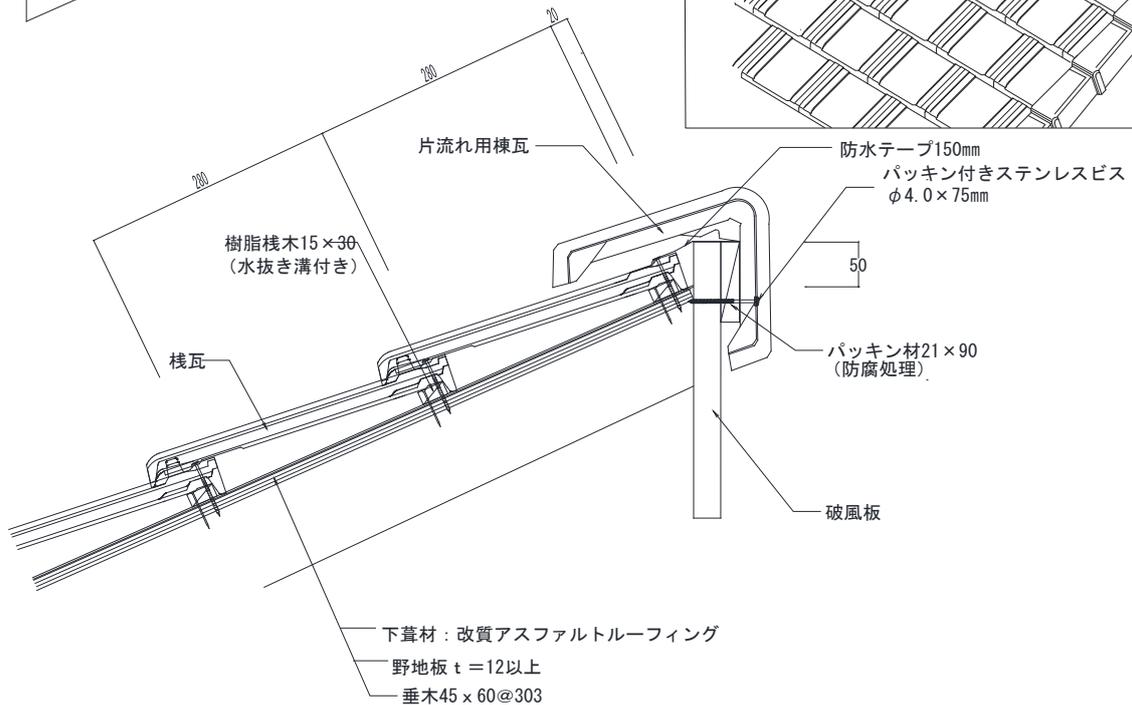


【大谷の納まり】



- 谷樋は、鋼板0.3mm以上を使用して下さい。
- 谷樋のカットした棧瓦は、必ず鋼線又は谷クリップ等で十分に固定して下さい。
- ルーフィング、2重張りをして下さい。
- 谷樋のジョイント部は、100mm以上重ね合わせてシーリングをして下さい。

【片流れ陸棟の納まり】





〒694-0303

島根県大田市水上町坏658番地1

Tel: 40854-89-0201 Fax: 0854-89-0276